

氏名： 高濱 裕子 (TAKAHAMA Yuko)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 博士 (人文科学) (2000 お茶の水女子大学)
職名： 教授
専門分野： 発達心理学・保育学
E-mail： takahama@kodomo.ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

親行動発達支援／幼児の反抗・自己主張／環境移行／社会化と文化化／縦断研究

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・学会発表
高濱裕子 2008
「3歳から就学期までの環境移行と社会化プロセス：研究の構想」
日本発達心理学会第19回大会 大阪国際会議場
- ・学会発表
坂上裕子・高濱裕子・高辻千恵・野澤祥子 2008
「子どもの反抗への母親の適応過程：縦断データによる検討」
日本発達心理学会第19回大会 大阪国際会議場

◆研究内容 / Research Pursuits

「葛藤処理方略の文化差の発生過程についての比較文化的研究」

第一次反抗期以降、家庭での社会化や就学前施設（保育所・幼稚園）および小学校での文化化の結果としてすると予想される処理方略の文化差を検討する。発達過程に焦点化した比較文化的研究は、おそらく本研究が世界で初めてのものである。この研究結果にもとづき、旧来の社会化プログラムや教育プログラムを再検討することが可能になると考えられる。

「3歳から就学期までの環境移行における社会化・文化化についての追跡的研究」

われわれは、すでに4年間にわたって「歩行開始期の子どもをもつ親に対する養育支援」を検討してきた。この研究結果にもとづき、3歳以降の対人調整力を追跡的に検討し、わが国の乳幼児の自律性の変化や家庭における社会化の実情を把握することが目的である。

◆教育内容 / Educational Pursuits

大学院前期専攻では、「保育者養成論演習」および「幼児教育課程論特論」「幼児教育課程論演習」を担当した。「保育者養成論演習」では保育者（幼稚園教諭や保育所保育士）の養成や、その専門性や専門性を支えるさまざまな資源について、内外の文献講読を通して検討した。また受講生が関心をもつテーマを研究の俎上にのせるために、いくつかの論文を取りあげて、方法論的にも検討した。

「幼児教育課程論（特論・演習）」では、幼児教育の特徴である環境を通じた教育についての考え方、カリキュラムについての考え方などに関して、文献の講読や受講生の実践をもとに検討した。また幼稚園の3歳児を3年間にわたって追跡したビデオを教材に、幼稚園の教師の役割について、幼児の発達との関係から検討した。最終的には、受講生の研究テーマに即して指導案を立案し、パワーポイントを用いて発表した。また発表をもとに全員で討論した。後期は Bruner の『教育と文化』をテキストとして、教育と文化の関係について洞察を深めた。

◆研究計画

歩行開始期の親子システムについてのわれわれの研究結果（平成16年度～平成17年度科研C）が、新たな国際比較研究へと結びついた。日本、中国、韓国そしてアメリカの幼児から小学生までを対象とした「対人葛藤処理方略の文化差の発生過程についての比較文化的研究がスタートした。日本と韓国の横断データは、今年度中に収集を完了し、分析を始めている。

◆メッセージ

親や保育者などの成人発達のメカニズムには、まだよくわからないことがあります。家庭や幼稚園・保育所などのフィールドに関与しつつ、それらを丁寧に追跡して解明したいと思っています。また、現職の保育者（幼稚園教諭・保育所保育士）が抱えるさまざまな課題を、発達心理学的な視点から検討したいと思っています。